資料２－２

第５回アドバイザリー会議開催に先立つ委員への個別事前説明　資料

千葉県立美術館の今後の方向性について

令和５年１月２７日（金）

千葉県立美術館の今後の方向性について

0. 2040年に目指す姿[第4回会議資料]

1. 県の考え方

1-1. 理念、施設運営
1-2. 施設運営、人事・予算・運営体制
1-3. 連携
1-4. 千葉の特性、展示・コレクション
1-5. 教育普及、魅力発信
1-6. その他

2. 千葉県立美術館が目指したい姿

3. 運営体制の強化（案）

4. 展示事業

5. 環境整備

開館当時の様子

O.　2040年に目指す姿（1）[第4回会議資料]

～運営体制の強化を図り、「みる・かたる・つくる」の理念をアップデートする～

	環境の変化	目指す姿	
みる	・アート概念の拡大 ・アートの社会への浸透 ・美術館周辺環境の整備 ・交通網の整備	・新しいアートとの出会い ・美術に触れるきっかけ ・地域活性化の拠点	であう
かたる	・社会のデジタル化・SNSの発展 ・アートを通じた地域振興 ・価値観・ライフスタイルの多様化 ・障害者のアートへの参画	・作家、鑑賞者、学芸員双方向の交流 ・本県の豊かな自然を活かした展示 ・様々な人々が関わるアートの展開	つなぐ
つくる	・若手作家・個人作家の増加 ・団体展参加者の固定化・高齢化 ・創作技術の進化	・次世代を担う若手作家を育成する ・創作を刺激する場とコミュニティを作る	はぐくむ

「県民の美術館」を実現

施設運営体制の強化
（専門人材（外部人材含む）の確保と育成、組織や人員配置の見直し等）

0.　2040年に目指す姿（2）［第4回会議資料］

開館当初の理念にもう一度立ち返りつつ、今の時代に適合した「県民の美術館」を実現する。

【であう】新たな出会い、発見の場を目指す

- 近代洋画など、これまで収集してきた作品が活用されるとともに、千葉県出身の作家に特化することなく、現代美術など新しいアートの作品が充実している。
- いつ来ても新しいジャンル、作家、作品に出会うきっかけを得る機会がある。
- 千葉文化資産や、音楽、海・食文化、デザイン等の県内文化とアートの融合などにより、本県ならではのアートシーンが創出され、美術への関心が薄い人も美術に出会う驚きと感動が得られる。
- 地域の核となるような施設であるとともに、レストランやショップの魅力が高まっている。

【つなぐ】県内のアートプロジェクトの拠点を目指す

- 美術館にとどまらず、首都圏にありながら豊かな自然を有する本県の豊かな特色が活かされ、野外空間での展示などにより本県ならではのアートシーンが創出されている。
- 県内若手アーティストや障害者、外国人、県内大学、学芸員など、様々な人々が関わりながらアートが展開され、かつ、それを誘発する機能を有するコミュニティがある。
- アートを通じた社会課題解決への関心が提起されている。

【はぐくむ】次世代の若手作家を育てる

- 次世代を担う若手作家が磨き上げられ、世界へ羽ばたいている。
- 国内外の作家による滞在制作など、創作を刺激する作家や作品、情報と出会える場がある。
- 若手作家同士のコミュニティが生まれ、活動が活発に行われる場がある。

1-1. 理念、施設運営

	No.	これまでの会議での意見	県の考え方	
理念	1	・今の時代に「であう、つなぐ、はぐくむ」では県民にうまく伝わりにくい。 ・「であう、つなぐ、はぐくむ」の３つでは足りないのではないか。	・設置趣旨を踏まえ、その趣旨のもとどう活動していくのかをわかりやすく県民に伝えていく。	P.11
	2	・「子供」というワードがないのはまずい。子供や女性、ジェンダーフリーなど、新しい美術館モデルを検討してもよいのではないか。	・子供や女性を含め、さまざまな人たちがアートに親しみを持てるような活動をしていく。	P.11
	3	・ローカルとグローバルについてもっと深掘りする必要があるのではないか。	・千葉ならではのアートシーンを追求し、千葉県立美術館としてのアイデンティティを確立することで、世界に通用する美術館を目指す。	Chiba
施設運営	4	・20年後を目指したとき、どのような千葉県民が美術館に来ているのか、利用者モデルを具体的に考えるとよい。 ・千葉県民にどのようになってもらいたいのか、長期的に見た県民への期待像を具体的に想像するべきである。	・基本構想の取組の検討にあたっては、子供や女性など、いくつかの具体的な利用者モデルを想定して、施策を検討したい。 ・心豊かな生活にはアートが必要だと県民に思ってもらえることがウェルビーイングに繋がると考える。	Civic
	5	・県内大学の学生を無料にするなど、千葉県としてインパクトのある改革ができると良いのではないか。	・心豊かな生活にはアートが必要だと将来を担う若者に意識してもらうため、学生フレンドリーな方策や施策を検討したい。	Civic
	6	・これまでの美術館の歴史の中で、守らなければならないところは守るべきである。 ・美術館活動に関わってきた人々が考える館の価値をよく確かめる必要がある。	・これまで館に関わってきた人々や団体の意見を尊重しながら、時代に合った関わり合い方を模索したい。	Civic
	7	・美術館がある場所のポテンシャルを最も活かす方法の検討が必要である。	・千葉みなとという恵まれた周辺環境と調和した美術館となるよう、ハード・ソフトの両面から施策を展開する。	Communicate P.15

1-2. 施設運営、人事・予算・運営体制

	No.	これまでの会議での意見	県の考え方	
施設運営	8	・地域の活性化に役立つ施設として、地域に貢献する必要がある。 ・旅行の目的地に選ばれるような魅力をどうすれば醸成できるのか検討した方が良い。	・まずは、美術館が所在する千葉みなとの活性化に貢献して、千葉みなと地区のポテンシャルを向上させたい。	P.15
	9	・どのようにすれば来館者が楽しめる空間となるのか、検討すると良い。	・利用者モデルを検討する中で、館庭を活用するなど、県民が楽しめる空間づくりを検討したい。	P.15 Center
	10	・小さくても、何にでも使えるような空間があると良い。 ・企画展と団体展の区画配分を再検討した方が良い。 ・収蔵庫の収蔵率が100%を超えているのはもったいない。	・現在の施設運用状況を分析し、より最適な配分ができるよう見直すとともに、過大過小な貸館事業を避ける。 ・メタボリズム建築の特徴を活かしながら、長期的な視点で新たな空間の確保等を検討したい。	
人事・予算・運営体制	11	・自治体としての県の組織のあり方に関わる、人事・予算等の問題がはらんでいる。	・美術館の在り方を打ち出した上で、専門職館長の招聘、学芸員の確保、予算の拡充を検討したい。	P.13
	12	・作品を購入しなければ美術館には情報が集まらない。作品購入費を確保しておくべきである。	・基本構想を打ち立てる際に収集方針をしっかりと定め、収集体制を強化したい。	
	13	・企画展事業費を、一定額年間予算として決めておいた方がいい。	・美術館の在り方を打ち出した上で、年間の企画展事業費の設定を含めて、適切な予算の在り方を検討したい。	P.13
	14	・普及課と広報課は分けた方が良い。	・専門性を鑑みた適切な運営体制を検討する中で、現在の庶務課・普及課・学芸課による３課体制を見直したい。	P.13

1–3. 連携

	No.	これまでの会議での意見	県の考え方	
連携	15	・異分野と美術をつなぎ、人々が新しいものを見出せるような場にすると良いのではないか。 ・美術館と「どこ」が「つながる」かというビジョンが必要である。	・異分野の専門家や県内大学等との連携を図りながら、組織の中で地域連携セクションの新設を検討する。	Connect P.13 P.14
	16	・美術館と県民をつなぐ、「メディエイター」となる存在が必要である。 ・友の会やボランティアなどの意欲のある人々と、ともに働いていくのが良い。	・参考となる他館の状況を調査しながら、友の会やボランティアの方々との協働が図れる体制づくりを検討したい。	Connect Communicate
	17	・県内美術館のハブ的な機能を持たせるのかどうかを視野に入れて検討した方がよい。	・美術館に県内のアートシーンの情報が集まるようなネットワークづくりを検討したい。	Center
	18	・来場者と学芸員が語り合う機会を設けるためには、SNSやVRの活用が有効であり、メーカーとのタイアップなどの協力体制を検討すると良いのではないか。 ・これまであまり美術館に関わってこなかった主催者がイベントを行なえるよう間口を広げると良い。	・民間企業に関心を持っていただけるような情報発信や営業活動を進めることで、外部と接点を設けていきたい。	Connect
	19	・千葉県障害者文化芸術活動推進計画が、美術館の動きと連動するとよい。	・障害者芸術の文化活動支援に積極的に取り組んでいきたい。	Connect

1-4. 千葉の特性、展示・コレクション

	No.	これまでの会議での意見	県の考え方	
千葉の特性	20	・千葉県の独自性を追求し、千葉県の魅力をより引き出すような方向性を検討できるのではないか。	・千葉県の豊かな自然と歴史を生かした展示をはじめとする活動を展開していく。	Chiba P.14
	21	・成田国際空港がある自治体の美術館ということを視野に入れ、方向性を検討をして良いのではないか。	・房総の近代美術を中心とするコレクションの研究成果で世界を驚かせたい。 ・外国人を利用者モデルに想定した取組を検討したい。	Chiba Civic
	22	・千葉県内で多様な人々が暮らす中で、社会問題に向き合った現代美術などを扱うことにより美術館としても貢献できるのではないか。	・社会課題に向き合った展示を実施したい。	Challenge P.14
展示・コレクション	23	・浅井忠は非常に重要な作家であるので、うまく打ち出していくべきである。	・常設の浅井忠ルームの設置などにより県が誇る作家として魅力の発信に努めると共に、浅井忠コレクションを活用し、県民がより浅井忠を身近に感じられるような施策を展開していく。	Chiba
	24	・デザイン業界を下支えするための展覧会の開催等を検討しても良いのではないか。	・県内大学のデザイン研究室等と連携・協力したデザインの展覧会を実施する。	P.14
	25	・職員の企画能力向上のため、キュレーターの招聘をはじめとする外部とのキュレーションの連携が検討可能ではないか。	・人材確保の面で外部専門人材・専門事業者の活用を検討していく。	Connect P.13
	26	・現代アートの質の変化を取り入れるような改革により、従来の陳列型の美術館の在り方を一新するのも一案である。	・インスタレーションの展示や千葉の豊かな自然を活かした屋外展示を実施する。	Change P.14

1-5. 教育普及、魅力発信

	No.	これまでの会議での意見	県の考え方	
教育普及	27	・教育普及事業が今の時代に アップデートされていない印象がある。 ・メニューの必要性を精査して スクラップアンドビルドするべきである。	・コレクションを活用し、外部機関や 専門人材を活用しながら、さまざまな主体に つながり伝えあう普及活動をしていきたい。	Change Civic
	28	・美術が好きな人だけでなく、 対象者を広げていかなければならない。	・具体的な利用者モデルを想定して、 心豊かな生活にはアートが必要だと 県民に思ってもらえるよう施策を検討したい。	Civic
	29	・シニアが生涯幸せに生きていけるような、 高齢者向けプログラムを提案したい。		
	30	・体験教育、実物教育が非常に重要になってきている。大学の教育学部などと協働していくことが必要である。	・外部連携、外部人材の活用の面で県内大学等 との協働を進めていく。	Connect
魅力発信	31	・千葉県立美術館という存在自体を知ってもらうことが重要である。	・美術館の在り方を打ち出した上で、 ユニークベニューでの利用等、美術館の 利用方法の幅を広げるなど、魅力を発信したい。	
	32	・大高正人建築を取り上げることで、 千葉県内のエリアの再発見再評価ができる。	・大高建築の再評価に向けて、同じく大高建築 である県の文化会館等と連携し魅力を 発信していきたい。	
	33	・「港と美術館がある街」というフレーズで 来たくなる人がいる。	・まずは、美術館が所在する千葉みなとの 活性化に貢献して、千葉みなと地区の ポテンシャルを向上させたい。	P.15
	34	・ランドスケープを含めて考える必要がある。	・県内大学等と協力しながら、ポートパーク等 と一体となったランドスケープを考え、 魅力の向上に繋げていきたい。	P.15
	35	・周辺に広まる要素として、 エントランス、ミュージアムショップ、 レストランを大きく改善する必要がある。	・美術館に関心がない人にも訪れてもらえる ように、ショップ、レストランの運営体制を 見直したい。	

1-6. その他

その他

No.	これまでの会議での意見	県の考え方	
36	・学芸員の情熱が大切である。 ・学芸員のハートがないように感じる。 ・現場からメニューを考えることが大事。	・専門職館長の招聘、経験者採用、学芸員以外の職種の活用により情熱を持った美術館職員を育成したい。	Change P.13
37	・恒常的にアドバイザリボードを設けるとよい。	・博物館法改正などにより、今後も専門的意見を聴取する必要があることから、引き続き有識者会議を開催したい。	P.13
38	・メディア・アートについて、令和５年度で終了した「メディア芸術祭」を美術館が引き継ぐ在り方も検討の余地がある。	・メディア・アートを含め、アートの概念の拡大に対応できるよう、積極的に新しいことに挑戦していきたい。	Challenge P.11
39	・現在はアートの表現が多様化しており、美術館自体が広く開いていなければならない。県内全域での活動を視野に入れるなど、学芸員自身の活動が変わっていくことが重要である。	・県民や地域などさまざまな主体につながり、伝え合いたい。	Communicate P.11
40	・博物館法改正の中で示されている「観光」の観点に対して、県としての意識がわかるような方向性であると良い。	・まずは、美術館が所在する千葉みなとの活性化に貢献して、千葉みなと地区のポテンシャルを上げる。	P.15
41	・デジタル対応などは、今はじめなければ遅れをとりかねない分野である。	・展示の面ではデジタルアート、デジタルミュージアム等、運営の面ではキャッシュレス対応など、できることから新たな取組に挑戦していきたい。	Challenge

2.　千葉県立美術館が目指したい姿

千葉県立美術館設置構想　設置の趣旨

本県文化の伝統を正しく理解し、その基盤の上に新たな文化を創造していく

～美術館職員のグループワークで出た意見～

Chiba

房総の近代美術を中心とする
コレクションの研究成果で世界を驚かせたい。
浅井忠の画業の顕彰、金工作品の調査研究など

Challenge

50年間の蓄積を踏まえて
新しいことに思い切って挑戦したい。
県内外、国内外のアートシーンの最先端の紹介、
ファインアートの文脈でのポップカルチャーの紹介など

Chiba

収集の柱をしっかり作って
コレクションを集めて活用したい。
アート界の新たな動向も見据えた収集方針の打ち立てなど

Civic　Connect　Communicate　Center

県民や地域など
さまざまな主体につながり
伝え合いたい。
子供、女性、障害者など、さまざまな利用者モデルの設定など

Change

県民に新たな価値観を提示することで、
県民の世界の見え方を変えたい。
アーティストとの対話をうむインタラクティブな展示、
房総の近代美術と現代アートのコラボレーションなど

（例）
・県外・国外から新たな要素を採り込むことで、
　千葉の文化に刺激を与える
・千葉ならではの自然・文化に即して
　活動しているアーティストの発掘・紹介
・県外・国外のアーティストの千葉への招聘
・アーティスト、デザイナーのハブとしての美術館
・コレクションの新しい価値・魅力の発信
・アートを核に、ショップやレストランの充実による
　多様な楽しみの提供

活動方針（案）

千葉の文化的蓄積を踏まえて
新たなアートシーンを創造する

（例）
・房総の豊かな緑、海という地理的な特徴に
　よって育まれた多様な文化
・江戸・東京に近い保養地として
　多くの文化人が滞在
・佐倉藩での蘭学の称揚
・利根川の舟運、野田の醤油産業等での
　経済発展に伴う文化的土壌の形成

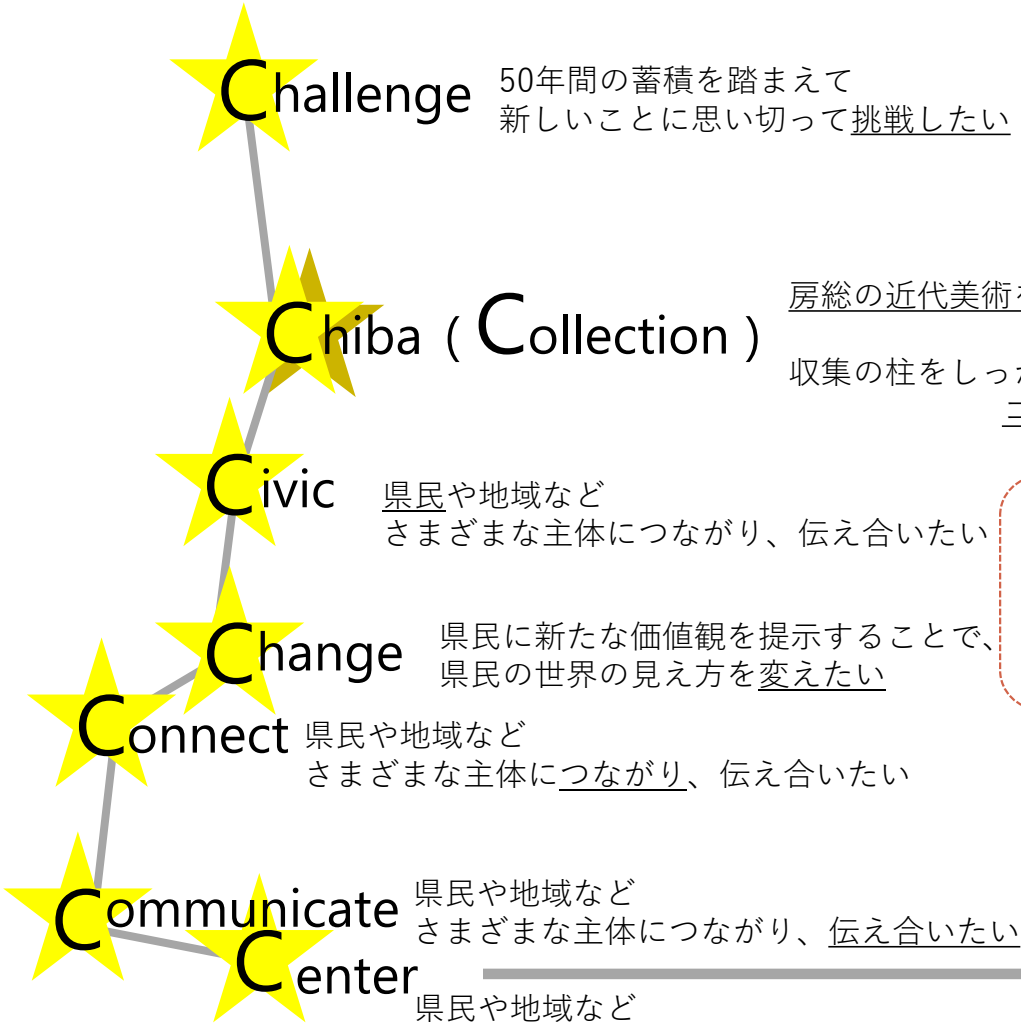
Pride

県民が誇りに思い、学芸員自身も誇りに思える
世界に通用する美術館を作りたい。
心豊かな生活を実現するアートの力を県民が実感している

2.　千葉県立美術館が目指したい姿

7つのキーワードを、千葉氏の北辰（妙見）信仰の信仰対象である北斗七星になぞらえ、達成した先の到達点として Pride（北極星＝Polar Star）を実現する

活動方針を具体化するためのキーワード



7つの「C」で Prideを実現する

3.　運営体制の強化（案）

1.　人材確保

1. 専門職館長の招聘
2. 経験者採用
3. 学芸員以外の職種の活用（学芸員とその他の職種によるチーム編成）
4. 学芸員育成（採用、研修、交流人事）
5. 外部専門人材・専門事業者の活用

着手済み

未着手

2.　組織

1. 広報専任セクションの新設
2. 地域連携セクションの新設

3.　事業予算

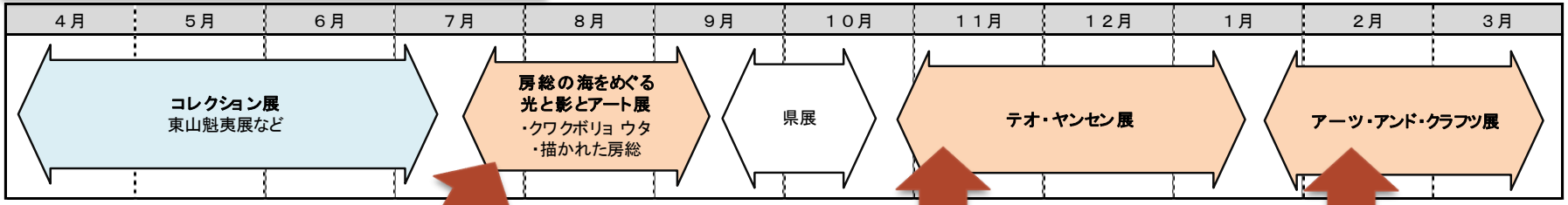
1. 中長期的展示計画の策定
2. 複数年度予算による事前準備・広報の充実
3. 企画展予算の年度ごとの定額化

会議での意見

・自治体としての県の組織のあり方に関わる、人事・予算等の問題がはらんでいる。(No.11)
・普及課と広報課は分けた方が良い。(No.14)
・異分野と美術をつなぎ、人々が新しいものを見出せるような場にすると良いのではないか。(No.15)
・職員の企画能力向上のため、キュレーターの招聘をはじめとする外部とのキュレーションの連携が検討可能ではないか。(No.25)
・学芸員の情熱が大切である。／学芸員のハートがないように感じる。(No.36)

4. 展示事業

令和５年度の展示スケジュール（案）



取組内容

房総の海をめぐる 光と影とアート展
Chiba
Challenge

クワクボリョウタ

◆「房総の海」をテーマに制作したインスタレーションを展示

描かれた房総

◆ 房総の豊かな自然を描いた作品を描かれた地の現在の写真と合わせて紹介

テオ・ヤンセン展
Change

◆ 房総の豊かな自然を活かし県内の砂浜で環境問題にアートから向き合った作品を展示

◆東京2020大会等を通じて千葉県が交流を深めてきたオランダとアートで文化交流

アーツ・アンド・クラフツ展
Connect

◆ 約150年のデザインの歴史を振り返り、美術館が誇る金工コレクションなど千葉の近代デザインの魅力を再発見する

◆ 地元大学のデザイン研究室等と連携・協力を予定

会議での意見

- 千葉県の独自性を追求し、千葉県の魅力をより引き出すような方向性を検討できるのではないか。(No.20)
- 現代アートの質の変化を取り入れるような改革により、従来の陳列型の美術館の在り方を一新するのも一案である。(No.26)

- 千葉県の独自性を追求し、千葉県の魅力をより引き出すような方向性を検討できるのではないか。(No.20)
- 千葉県内で多様な人々が暮らす中で、社会問題に向き合った現代美術などを扱うことにより美術館としても貢献できるのではないか。(No.22)
- 現代アートの質の変化を取り入れるような改革により、従来の陳列型の美術館の在り方を一新するのも一案である。(No.26)

- 美術館と「どこ」が「つながる」かというビジョンが必要である。(No.15)
- デザイン業界を下支えするための展覧会の開催等を検討しても良いのではないか。(No.24)

5. 環境整備

地域連携の強化

ポートパーク連絡通路の整備

館庭の有効活用

レストラン周辺の芝生への
アート遊具等の設置

地域活性化への参画

さんばし広場のイベントへの参加

会議での意見

・美術館がある場所のポテンシャルを最も活かす方法の検討が必要である。(No.7)
・地域の活性化に役立つ施設として、地域に貢献する必要がある。(No.8)
・どのようにすれば来館者が楽しめる空間となるのか、検討すると良い。(No.9)
・ランドスケープを含めて考える必要がある。(No.34)